

## 意見交換会報告書

開催日時	令和5年11月7日（日）午後7時30分 終了：午後8時30分	
開催場所	福祉ふれあいセンター2階 教養娯楽室	
対象団体	Chat seeds	
参加人数	19人	
班構成	B班	木谷和栄、中野 進、田代敬子、小川義昭、村本一則、 宮岸美苗、藤田政樹
役割分担	司会・挨拶：藤田 記録：田代、中野、木谷	

### 意見交換会テーマ「小・中学校の不登校の現状について」

- ①不登校生徒の対応は、リモート授業や出られる授業だけ出席できるようにするなど、個に応じた柔軟に行ってほしい。また、不登校に関して教職員の理解を深め、対応に差が出ないようにしてほしい。
- ②フリースクールや放課後デイリースクールの費用補助等を行い、学校以外での居場所づくりにも積極的に取り組み、保護者と情報共有してほしい。

### その他の意見

- ・子供が不登校になり始めたとき、先生とのやり取りなど、これからどうしていったよいか分からない不安が大きい。登校日数なども気になる
- ・フリースクールや教育センターなど学校外の情報は自分で調べないと分からない。先生もそのような学校外の情報や教育機会確保法を知らない（あまり理解していないし、先生もこれを理解する時間が無いのではないか。）
- ・新しく赴任された管理職の先生の不登校児に関する引継ぎをしっかりとしてほしい。
- ・スクールカウンセラーとよく話をするが、学校に不登校に携わる人員がもっと欲しい
- ・かつて不登校だった子が学校に感じたことは、同じことを何度もさせる、テストで優劣をつけて成績のよい子をかわいがる（ように見えた）、自由がない、勉強も学校生活も全部受け身で嫌だった、みんなと同じことをすることが嫌だったなどが挙げられる。
- ・教育機会確保法ができてあまり変わらない現状がある。どうやったら学校や教育委員会が変わっていくか考えてほしい。
- ・不登校の子の居場所として、子供が低学年で状態によっては仕事を辞めて家で付きっきりになるなど、家計的によくなかった。
- ・子供の不登校の程度によっては、フリースクールやほかの居場所も全部合わないということがある
- ・不登校の子供や保護者に情報が少ないことは不安。学校や世間がドンと構えていて「大丈夫、安心して」といろいろな道を示して寄り添ってくれるようになればよい。
- ・子供が不登校になることが大問題だという空気感が家庭や学校にあると、子供が自己否定に陥る。→不登校になることは当たり前であって、そうなってもその後の選択肢はたくさんあるし、学校と保護者と子供が同じゴール（自立、社会復帰）を目指していくことが大切だという社会観になればよい。

- 中学の場合、出席日数や進学の問題があるので、進路やその他の選択肢などの情報をたくさんもらえたらよい。
- 不登校の子供が増えてきている社会背景をどう見るか、学校（文部科学省）や親、地域社会が考えていかないといけない。
- 幼保の現場は一斉保育をやめて個々の対応をしているが、小学校に上がったなら一斉に「共同」となり混乱する。低学年のうちには個々の主体性を大切にしてほしいが、今の教員の体制では難しいのでは。
- 特別支援学級で支援員が不足している。
- 不登校に対する支援員が少なすぎる
- 幼保から小学校に進むときに計り知れないギャップを感じるので、保育士と教諭との話し合いの連絡会が必要。文書による連絡はあるが、伝わりきらない。
- 特別支援学級は普通クラスの先生で、障害への理解や知識がない。「駄目」ばかりで好奇心の目を摘まれている。
- 先生方も子供のためを思って取り組んでいるのはよく分かるが、保護者や子供との意思疎通がうまくいかないせいか、どうしても学校の対応にはモヤモヤが残る。

備 考	
-----	--